

友だちのすてきなあいさつ

河西小学校二年 木ど とうご

ぼくは、Aくんという友だちがすてきなと思った。どうしてかと言うと、あいさつがすてきだからだ。

ぼくは、あいさつがあまりとくいじゃなかった。とくいじゃないのは、たぶん、はっぴょうがきらいだからだと思う。ある日、せきがえをした。そして、Aくと近くになった。つぎの日の朝、ぼくはAくんより先に学校についた。そして、Aくんが来た。

「おはようございまーす。」

という大きな声だった。ぼくは、こう思った。あんな大きい声ではずかしくないのかな。帰りのあいさつの時、ぼくもちよっとだけ大きな声を出してみようかなと思ったけれど、出せなかった。そして、

Aくんの

「さようなら。」

という声に、またもぼくはびっくりした。どうしたらあんなに大きな声をみんなの前で出せるんだろう。ぼくは、下校中にずっと考えていた。よく朝は大きな声であいさつしよう、夜にずっと思っていた。

つぎの日の朝が来た。やっぱりむりだと思ったけれど、Aくんの大きな声を思い出したらぼくも、

「おはようございまーす。」

と言えた。そして、Aくんに

「大きな声だね。」

と言われた。ところがぼかっとなたかくなって、

「ありがとう。」

と言った。

そして、これからもあいさつができないむかしのぼくみたいな人もいるだろう。だからできない人にはぼくが大きな声をだしたらこころがすっきりするんだよといってあげて、すてきなクラスにしていきたいと思います。